

2017 年度 GSK 医学教育事業助成の概要

学会名

日本臨床神経生理学会

正式名称

臨床神経生理検査の普及・教育のためのウェブセミナープロジェクト

医学教育事業の概要

メイン会場とサブ会場および自施設等を結ぶウェブセミナーによる筋電図・神経伝導検査施行の実技、脳波検査施行・判読の実技等の実施
セミナーおよびその他教育講演内容を e-learning 方式の教材として作成

医学教育事業の対象者

主な医療関係者：医師（神経内科、精神科、脳神経外科、整形外科、小児科、リハビリテーション科など、関係各科医師）、臨床検査技師、その他
対象となる医療関係者の想定人数：10,000 人

医学教育事業の必要性

脳波検査、筋電図・神経伝導検査などの臨床神経生理検査は、神経系疾患の検査法として広く用いられ、重要な役割を果たしている。しかし、検査技術に大きく依存する検査法で、判読・解釈にも高度の技能を要する。現状、これらの技術・技能レベルは不十分で、従事する技師が全国で約 5000 人であるが、神経生理 2 級試験資格保持者 600 人、学会認定専門技術師 300 人強に過ぎない。当学会も地方での関連講習会充実を目指しているが、北海道、中部、北陸、中四国では関連講習会を開催できていない。さらに、当学会主催のセミナーでは、すぐに定員が埋まり、技術を学びたいという会員・非会員の需要と希望に当学会の提供する機会ではまだ充足されていない。

医学教育事業の目的

多くの会員・非会員が、エキスパートによる実際の検査施行場面を見ることが出来るライブデモ形式のウェブセミナーを企画・開催する。また当日視聴できなかった人のための、このセミナーやその他の当学会教育事業をウェブ配信して自己学習する e-learning システムを構築する。これらによって、臨床神経生理検査現場での技術技能向上を実現し、国民の医療に貢献することを目的とする。

医学教育事業の計画・方法等

ウェブセミナー(筋電図・神経伝導分野、脳波分野、術中モニタリング分野合わせて、3 年間に 4 回程度開催)のメイン会場を東京に設定し、数十人程度が参加する形を考えている。そこで 1 回 2 名程度のエキスパートが検査施行の実技・判読の実践などを行い、ウェブ配信する。ウェブセミナーは、専門の運営会社に依頼し、地方の会員・非会員はサブ会場で閲覧・参加するほか、自施設等でのウェブ閲覧・参加できる方式とする。十分な時間(講師 2 人で 3 時間程度)を取って、疑問点などについて自由に質疑応答し、検査リクエストができる双方向性のセミナーとする。技術的にはサブ会場では機器を持ち込むことで音声・画像も含めた質問、自施設等でのパソコンではテキストベースの質問が可能な予定である。また、当日参加・視聴できない人のために、セミナーを後日ウェブ上にアップロードし、会員・非会員とも視聴できるようにする。また、学会主催の各セミナーや学術大会での教育講演等も同様の教材としてアップロードし、e-learning 機能とその評点を集計する機能を加え、セミナー開催前と開催後にテストを行って効果判定の指標とする。また参加者をフォローして半年後ぐらいに再度同じテストを行ってもらい、長期効果を判定することも試みる。e-learning 構築も専門業者に委託する。学会では本事業に特化した委員会を新たに立ち上げ、特に初年度中にウェブセミナーの計画運営、e-learning 構築を集中的に行い、運営開始を目指す。

医学教育事業の成果に対する情報共有について

本ウェブセミナー事業については、ホームページ、会員へのメール、関係学会・団体への通知によって広報を行い、効果判定を含む得られた成果についてもホームページなどの上記メディアで公開する。